

あしぎんの取り組むソリューション 地域の産業を支える物流を持続可能に

事例 紹介

酒井運送株式会社

(茨城県鉾田市)

設立 1977年 従業員数 40名
業種 青果物や農業資材、肥料その他の輸送



代表取締役 三上 一志



社長就任時の 課題は山積み！

『「2024年問題」は、うちの規模の運送会社ではとても消化しきれない問題に思えました』と三上社長は当時を振り返ります。「長時間労働が当たり前」「体力的・精神的に過酷な現場」「これで本当に未来はあるのか」という不安、さらに取り扱っているのは「野菜」などの足の早い青果物で、時間は待ってくれません。「まずは、労働環境や労働条件を改善するため、荷主さんにどう理解してもらうかが一番でしたが、どこから手を付けていいのかわからなかった」と言います。そんな三代目社長としての就任当時に当行行員が訪問し、当行が三上社長にとって初めて付き合う銀行となりました。



“何でも聞ける関係性”が、 その後の支援の土台に

「初めて付き合う銀行さんだからこそ、見栄も何もなく、恥ずかしいことも聞けました」この関係性がその後の支援の土台となります。担当者は、経営方針や事業の方向性など経営者としての悩みを抱える三上社長に、本部の「物流チーム」を紹介し、長距離輸送案件に関する中継輸送の仕組みの検討や、他社事例を踏まえたアドバイスなど、幅広い情報提供や多くの提案を行いました。

対話を生み出す原価分析

酒井運送では、細かな運賃表やこれまで蓄積してきた輸送データをもとに、社長が現場経験から培った感覚も踏まえ、必要な情報を丁寧に整理しました。物流チームも、AIでは処理しきれない細かなデータを手作業で補完し、運送原価および収支の可視化を支援。こうして作成した資料は、自社の原価構造が見える化し、社内外での共通理解を深める基盤となりました。三上社長は、その資料をもとに荷主企業と対話を重ねました。その結果、荷主側の理解も次第に深まり、「運賃を10%引き上げたい」という同社の要望に対しても、「7~8%であれば受け入れ可能。残る2~3%をどう抑えるか、一緒に考えたい」といった前向きな反応が得られるようになりました。データを起点に対話を重ねることで、双方が課題解決に向けて協力し合う、より良い関係づくりにつながっています。

食と輸送、次世代へのバトン

鉾田市は“日本で一番やさいをつくる街”。三上社長は「米も野菜も日本人全員の生活の根底にあるもの。輸送面で困っている生産者も多く、どうにか届けたい。我々地元民がしっかり支えていくためにも、次の世代の生産者や自社社員が誇りを持って進んでやっていきたいと思えるような会社づくりがしたい」と話してくださいました。

足利銀行では、各業種に精通した専門チームが、お取引先の本業成長を力強くサポートします。業界特有の課題解決から事業拡大、DXや人材戦略まで、現場目線で最適なソリューションをご提案し、地域と企業の未来づくりを共に支えます。

長く伴走支援ができるパートナーであり続ける

足利銀行の主な営業エリアである北関東(栃木県・茨城県・群馬県)は、高い技術力を有する製造業の集積地であるとともに、豊かな自然環境に恵まれ、農業・酪農も盛んな地域です。また、首都圏へつながる東北自動車道、関越自動車道、常磐自動車道に加え、これら3路線を結ぶ北関東自動車道など、高速道路網が充実しており、物流拠点として優れた環境を備えています。当行では2017年に物流事業に特化した「物流チーム」を立ち上げ、物流業界の皆さまへの支援に取り組んでいます。酒井運送さまとは、事業性評価をきっかけに物流チームが連携し、同社の現状や課題、今後のビジョンについて三上社長と共有しました。当初、同社は物流の「2024年問題」に直面し、何から着手すべきか見通せない状況にありましたが、三上社長が真摯に課題と向き合う姿勢が強く印象に残っています。そこで、課題に優先順位を付け、解決に向けた提案や情報提

供を実施しました。なかでも課題だった運送原価の算定については、三上社長と物流チームが膨大な輸送データや紙伝票を一枚ずつ確認・分析し、車両別・コース別の収支状況を可視化しました。その結果、算定した運送原価を指標として荷主さまとの対話が深まり、取引条件の改善にもつながりました。こうした前進は、持続可能な物流の実現に向けた大きな一歩になったと感じています。今後も、地域の青果物輸送を支える同社のビジョン実現に向け、長期的に伴走するパートナーであり続けたいと考えています。



法人コンサルティング部
物流コーディネーター
小室 和久



水戸支店
渉外担当
荒井 悠

お客さまの想いに寄り添う

酒井運送さまのご縁は、前任者が新規のお取引を築いたことから始まりました。私はその後任として、前任者が紡いできた信頼のバトンを受け継ぎ、その重みを感じながら日々の対話を重ねています。物流とは、荷物を運ぶだけでなく、生産者の願いや地域の暮らし、明日へ続く営みそのものを運ぶ仕事なのだと感じています。これからも酒井運送さまの想いに寄り添い、その大切な流れをともに守り、未来へつないでまいります。

運送業を取り巻く環境と当行のお客さま(酒井運送 さま)への対応

酒井運送さま	水戸支店渉外担当が初訪問	事業性評価の実施 現状・課題、今後のビジョン等について社長と共有(物流チームと連携)	課題等の深掘り ①車輦単位などの原価管理 ②原価構造の把握	物流チームのコンサル ①原価の可視化 ②原価構造の理解 ③適正な運賃の把握	継続的な原価管理 「Wing-Logi」導入
	物流チームが初面談				
足利銀行	運送会社さま向け「コンサルティング支援サービス」の開始	荷主企業さま向け「物流支援サービス」の開始	クラウド型運送原価算定システム「Wing-Logi」の取り扱い開始		
国の施策等	2017年より、本業支援の取り組みの強化業種として「運輸・倉庫業(物流)チーム」を組成				
	2023年	2024年 トラックドライバーへの残業規制適用開始	2025年 ・物流効率化法および貨物自動車運送事業法改正 →荷待ち時間や荷役時間の積載効率の向上等	2026年 ・物流効率化法および貨物自動車運送事業法改正 →委託次数の制限 他 ・取適法(下請法)の改正	



クラウド型
運送原価算定システム
Wing-Logiとは

- ✓ 簡単操作で運送原価を算定
- ✓ 車両別の収益状況を把握
- ✓ 原価に基づく適正運賃を設定
- ✓ 直感的に操作できるシンプル機能
- ✓ ダッシュボードへのグラフ表示
- ✓ 当行独自開発システム